

農福連携の推進に係る好事例と課題の共有 プラットフォームとのヒアリング (R7.9~10) による



高知県子ども・福祉政策部 障害保健支援課

農業側からみた課題

・福祉の理解

農業者は、障害のある人が、日によって体調に波があることや配慮の方法がわからず、家族経営等小規模な農家では配慮が難しいため、福祉へ仕事を出そうと考えてない人も多い。

・作業時期

農作物は天候等(霜が降りる前に収穫等)に左右され、収穫時期は、1、2週間と期間も限られるため、お願いしたいときに事業所とのタイミングが合わず、作業受委託がマッチングしない。

・就労場所までの交通手段の確保

農作業の場所が山の上や公共交通機関が通っていない場所であり、運転免許を持っていない人などは通えないため、農業がそもそも障害のある人の選択に入っていないことがある。

・農作業の切り出し・掘り起こし

障害者のある人等ができる作業は人ごとに能力の差があり、常に工夫して切り出しや掘り起こしが必要となるが、なかなかその時間がとれなかったり、そこまでして、仕事を出す必要性を感じていない。

・施設外就労の難度

農家側は、特に収穫等の農作業の場所で繁忙期に人手がほしいが、就労継続支援事業所をお願いする際に支援者が確保できない等の理由で受けてくれる事業所がない。

・農閑期の作業

障害のある人に定着してもらうために通年で農作業があればいいが農閑期には人を雇ってお願いしないといけない分量の仕事がないため、通年で雇用することは困難。

福祉側からみた課題

・農業の理解

障害のある人や事業所の人には、農家での経験がなく、季節毎に農作業が変わることや注意点についてもわからないため、1年を通して農作業に関わってみないと就職することは難しい。

・作業時期

農作物の収穫の量や農地での天候等によってその日の作業が左右されるため、いつでも仕事があるわけではなく、農作業以外の軽作業を選ぶことがある。

・就労場所までの交通手段の確保

障害のある人は、移動できる範囲が限られる人も多く、就労場所が山の上などにあり、公共交通機関や交通手段がない場合は、就労することができないため選択肢が限られる。

・障害のある人等に基本的な技術が身につくまでの伴走支援

障害のある人は、天候や周囲の環境によって体調の波がでてくるため、障害のある人等が仕事に定着するために定期的な訪問等で支援を続けていく必要がある。

・農作業の切り出し

障害のある人は、野菜の選別は難しいが、袋詰めのみ、シール貼りのみならできる人がいたり、人によって難易度が変わるため、作業の切り出しをすることにより、活躍できるようにしてほしい。

・施設外就労の難度

障害者施設において、農家から繁忙期に農地での収穫等の依頼を受けることがあるが、支援員が不足しているため、日頃の付き合いや作業内容・単価によりお断りすることがある。

施設内での業務だと受けやすいが、農作物等も持ち込みまでしてほしい。

・農閑期の作業確保

一般就労において、農閑期には農家からの仕事がないため、通年で雇用してもらえない。

好事例

・情報共有が高頻度

農業と福祉双方が、毎月情報交換を行っており、それ以外でも農業の関係者や福祉の関係者がマッチングした農家等に定期的に訪問し、訪問後は、障害のある人等のその時の体調や作業等をお互いに随時共有している。

・伴走支援の実施

障害のある人を雇用した企業に障害の理解がある職員がおり、日々、コミュニケーションを取りながら支援をしている。

プラットフォームの関係者で農家と個人のマッチング後、農作業の指導や見守りを行っている。

・プラットフォーム立ち上げの声かけ

農業振興センターや普及所の職員が農業に労働力確保のニーズがある管内の市町村に対して、プラットフォームを立ち上げることによる福祉からの労働力確保に向けて農福連携推進アドバイザーを活用するよう声かけを行い、農福連携を推進している。

・作業単価の交渉

福祉事業所において、仕事を出してくれている農家に対して、定期的に農作業を繰り返すうちに熟練度が上がっていき、生産性が良くなっていることを理由に単価交渉を行い、工賃向上につなげている。

・農閑期の仕事創出

障害に理解のある農家が、農閑期に障害のある人等の仕事が無くならないようにするために別の作物を栽培し仕事を創出。